



所有歴8年になる奥さんの愛車はストリートでの乗りやすさとVTECを体感できるように、オリジナルでエキマニから作られる快音マフラーがポイント。センター出しのレイアウトも走りのキャラクターを主張している。

### シャコタンEKにドンピシャ!

モータースポーツシーンでシビック最強を明確にしたのが、タイプRを初投入したEKシリーズ。パフォーマンスマシンとして人気集中するタイプR(EK9)の影に隠れてしまったものの、伝統のSiR IIグレードを受け継いだEK4はシビック本流の最上級グレードだ。そんなEK4をベースに、ストリートレーサームードを高めたのがEプライムである。もともとはハイキャンバーの痛車だったものを、低く走れるように足回りをリフレッシュ。同時にレクサス純正カラーでペイントしつつ、モール類には紺色にレッドパールを加えてコントラストを強調するシビックに変身させている。このシンプルさを際立たせるのが足元を飾るワークエモーションRS11。16×8.5Jのサイズに205/45を組み合わせることで、JTC時代を彷彿とさせるフェンダーパツパツのムッチリフォルムが出来上がるというわけだ。今後はB18Cへの換装も予定し、VTECならではの気持ち良い走りが楽しめる仕様を目指しているだけに、シビックらしい走れる足元メイクも欠かせないというわけだ。

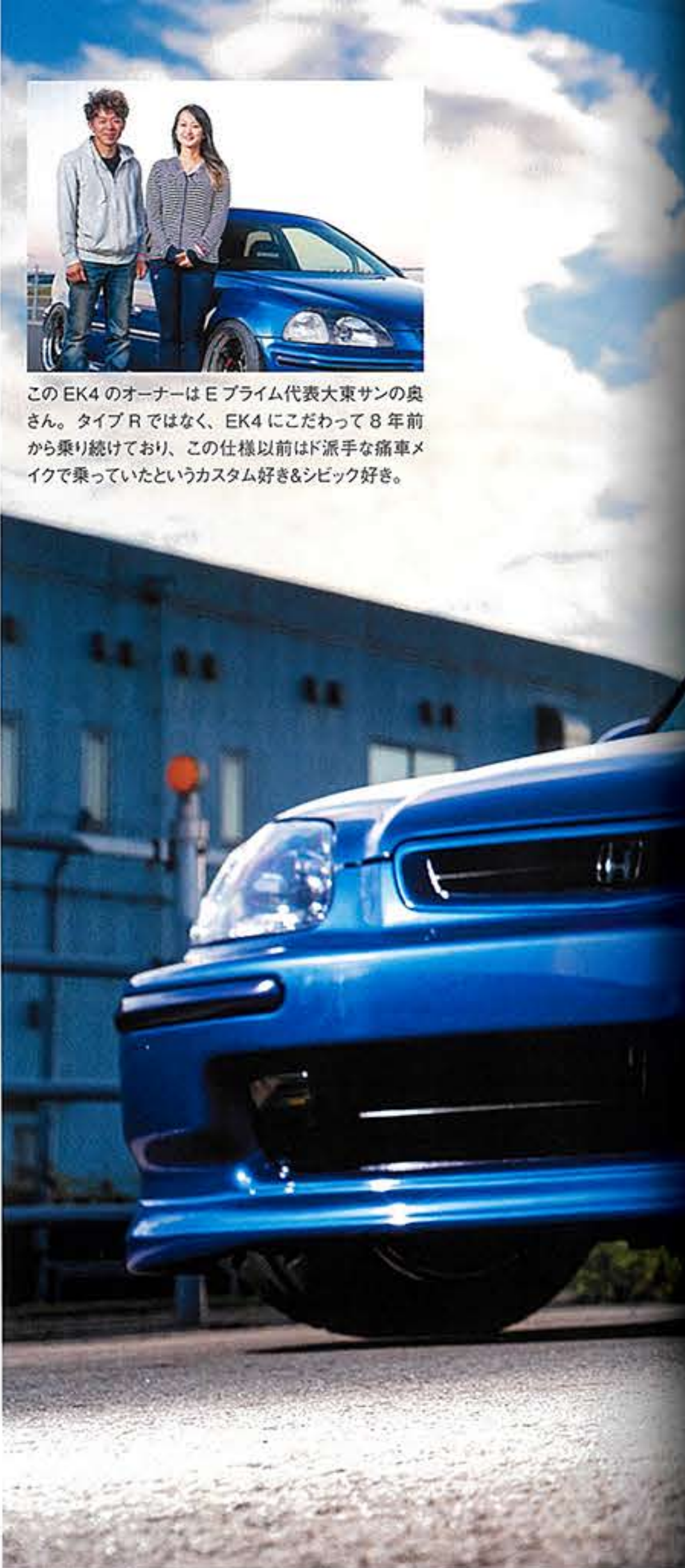


派手なカスタムではなく、街乗りでもシビックに楽しめるようにコーディネートされたインテリア。特にシートは絶版となっているブルーのブリッド・ジータIIIを左右に装着し、ボディカラーとのマッチングも狙っている。6点式のロールバーやRENOWNのステアリングなど、モータースポーツイメージを高めるアイテムも投入済み。

- OWNER : ENA DAITO(@ena\_ek4\_civic)
- BASE CAR : HONDA CIVIC (EK4) Si-R
- EXTERIOR : DC2 INTEGRA FrontLip, ZERO FIGHTER Rearunder Lipspoiler, E.PRIME ONE-OFF Roofspoiler, E.PRIME Original paint, Smoothing (Numberhall / Antennahall / RearEmblem / RearWiperhall)
- WHEELS : WORK EMOTION RS11 (F&R=16 × 8.5J+17)
- TIRES : TOYO PROXES R888R (F&R=205/45-16)
- SUSPENSIONS : RG Coilover, F=326POWER Spring 50K / CRAFT Spring 38K, Adjustable Front & Rear Upperarm, Front ShortKnuckle, Rear BilletLowerarm, MUGEN Trailingarm
- BRAKE : ENDLESS Brakepad, SLASH MD Dimple disk rotter
- TUNING : E.PRIME ONE-OFF Muffler
- INTERIOR : BRIDE ZETA III Bagetsheet, DC2INTEGRA Rearsheet, RENOWN Steeringwheel TT G, CHRONICLE&BATTLE CRAFT Shiftknob, E.PRIME ONE-OFF 6Point Rollcage



## E.PRIME × HONDA CIVIC



このEK4のオーナーはEプライム代表大東さんの奥さん。タイプRではなく、EK4にこだわって8年前から乗り続けており、この仕様以前はド派手な痛車メイクで乗っていたというカスタム好き&シビック好き。



## エモーションシリーズより レーシーな11本が登場!

# NEW RIMS NEWS

話題の新作ホイール  
情報コーナー



## WORK EMOTION RS11

ワークエモーション アールエスイレブン

SNJ愛知で初公開されたワークの新作がエモーションシリーズより登場! スポーティな11本スポークが採用され、サイズは15~17インチ設定! B/Cセグメントにジャストなリムはスタンスシーンのお話沸騰中。レーシーに深く履きこなそうぜ!

source : ワーク東日本 048-688-7555  
ワーク西日本 06-6746-2859  
ワーク中日本 052-777-4512  
<https://www.work-wheels.co.jp/>  
photo : Akio Hirano  
text : Daisuke Watanabe



- カラーはブラックorホワイト**  
スタンダードカラーはホワイトとブラック2種類のディスクをラインアップ。リムカラーのアレンジはブラッシュドやブロンズアルマイト、ブラックアルマイトなどの選択肢が用意される。どちらも往年のムードを活かしながら、深リムによる迫力も十分に伝わる。
- WORK EMOTION RS11**  
 ■サイズ : 15 × 5.5 ~ 10.0J / 16 × 6.0 ~ 9.0J / 17 × 6.0 ~ 10.5J  
 ■H数 & P.C.D : 15 ~ 17インチ (4H-100)、17インチ (5H-100 / 5H-114.3)  
 ■カラー : ディスク(ブラック / ホワイト)、リム(ブラックアルマイト / マットブラックアルマイト / マットブロンズアルマイト / マットブラックアルマイト / カットアルマイト)  
 ■価格 : 4万8400 ~ 6万7100円

スタンスシーンでもサブコンメイクでは「スポーツ」や「レーシング」のキーワードは欠かせない。中でもJDMの代表格と目されるシビックといえば、JTCでの活躍にインスパイアを受けた大阪環状仕様など、本気で走れるクルマ作りが基本といえる。そんなサブコンにターゲットを絞り、ワークエモーションから誕生したのがRS11。15インチから17インチに限定したリムサイズは、往年のワンダー&グラウンドにもジャストフィット。もちろん現行のヤリスやスイスポ、さらには軽なんかにもピッタリなサイズ展開を用意している。

デザイン面に関しては往年のスポーツホイールをイメージさせる11本スポークを、古式ゆかしいディスク形状で再現。流行りのコンケープには目もくれず、いにしへの深リムイメージを徹底的に再現しているというわけだ。この徹底ぶりは当時を知る人には懐かし、逆に知らない人には新鮮に映ること間違いなし。もちろん当時のイメージを踏襲しながらも、その作りは現代の最先端技術を応用しているため信頼性も抜群。しかもワークお得意のオーダーインセットも可能。ジャストなサイズを取り入れられるのだ。

往年のイメージをリバイバルしたJDMを作るには、この雰囲気は見逃せないはず。ムチムチのタイヤと組み合わせながら、タイヤレターを加えればストリートレーサーのムードも高まるはず。サブコン乗りは要チェックな存在なのだ。